



久保・長江中学校区の学校再編について 保護者説明会

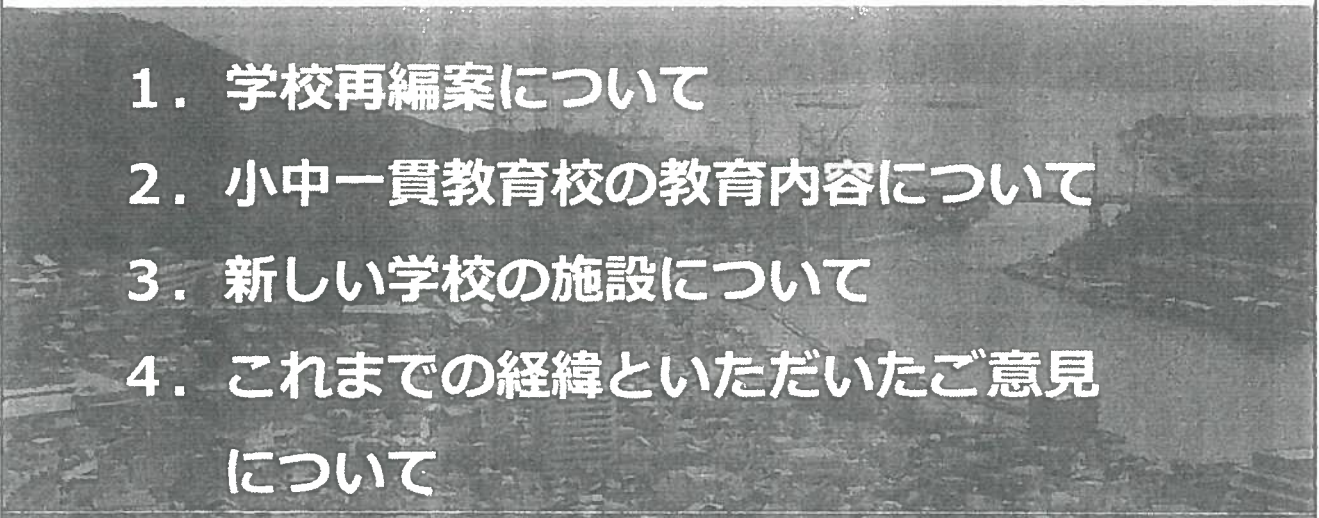
尾道の学校教育をリードする小中一貫教育校



令和5年6月 尾道市教育委員会

1

本日の内容

- 
1. 学校再編案について
 2. 小中一貫教育校の教育内容について
 3. 新しい学校の施設について
 4. これまでの経緯といただいたご意見
について



2

これまでの取組について

H21～H31 (R1)

久保小学校、長江小学校、土堂小学校の耐震化方針の検討

各学校ともに現在地での耐震化を断念→中学校を含めた検討を開始

【主な要因】

- ・立地による工事施工に係る課題
- ✕ (進入路の狭小、児童が居ながらでの工事が困難) ← できずめん出来るいとおれ
- ・改築及び減築が必要な校舎が生じたこと
- ・土砂災害防止法に基づく警戒区域、特別警戒区域の指定
(新たな校舎が建築可能な場所が限られていた→中学校を含めた検討が必要となった)

R3

久保小学校、長江小学校、土堂小学校 仮校舎へ移転

R3～現在

久保・長江中学校区の学校再編の検討

学区内の児童生徒の推計を考慮し、よりよい教育環境の実現を目的として検討

5



出来るだけゆをるさるさる

検討にあたっての考え方

①安全性の確保

公共施設は利用者の安全を考慮し、土砂災害警戒区域、特別警戒区域では新たな施設整備は行わない。

⇒ 長江小学校敷地、土堂小学校敷地には新たな施設整備は行わない
(敷地内、周囲の大半が土砂災害特別警戒区域)

②校舎の耐久性 (建築年数に伴う影響)

(ア) 3小学校の校舎は、建築年数が経過しており、耐震化しても今後継続して使用できる年数が多く見込めない。

(イ) 大規模改修での延命も文部科学省の示す築80年を経過している建物であるため困難。※現在の校舎を耐震補強して使用し続けることは行わない方針

⇒ 久保小校舎 (S8建築)、土堂小校舎 (S12建築) の継続使用は行わない (築80年を経過した建物)

③適正な学校規模の確保

尾道市教育委員会は、よりよい教育環境を確保するため、1学年複数学級を掲げている。今後の児童生徒数推計を見込み、1学年複数学級となる学校規模での再編を行う。→ 必要

⇒ 久保小学校、長江小学校、土堂小学校・長江中学校の再編の検討が必要 (小学校は1学級規模が継続、中学校は今後1学級規模となる見込み)

6